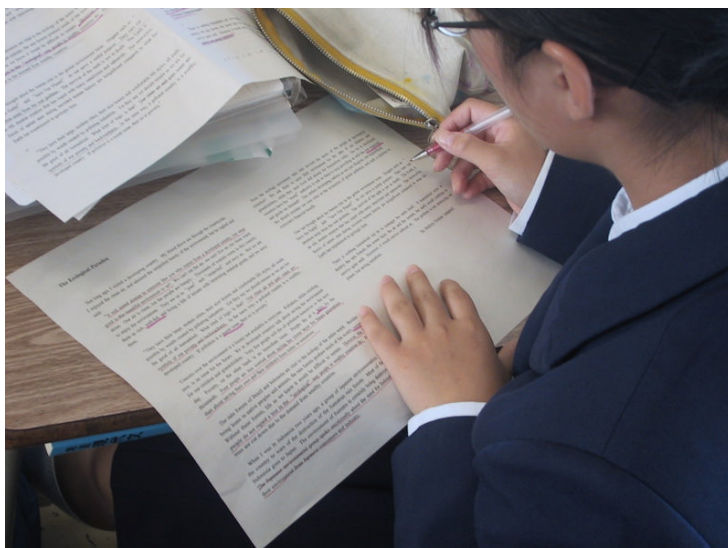


平成18年度

## 高校生の学力と学習状況

【学習支援テスト結果分析】



実施日：平成18年11月14日  
対象：公立高校1年生  
実施：高知県進学協議会  
集計及び分析：高等学校課

高知県教育委員会

## 1 学習支援テストの概要

- (1) 実施日 平成18年11月14日(実施基準日)
- (2) 対象生徒 高知県公立高等学校41校  
全日制、多部制課程(昼間部)1年生
- (3) 試験の内容 ①学力テスト 国語、数学、英語  
②学習状況アンケート

## 2 学力の状況

### (1) 各教科の指標

	国語	数学	英語	3教科計
受験者数	4839	4840	4839	4817
平均点	52.3	42.2	48.6	143.1
標準偏差	17.7	26.4	18.8	63.4

### (2) 各教科の分野別得点率

教科	領域	問題番号及び観点	点数	正答率
国語	言語事項	1 漢字、文法など	20	60.7
	読解	2 現代文(評論文)	30	49.2
		3 現代文(小説)	30	49.7
		4 古文	20	52.5
数学	数と式	1 数と式 ①(中学校)	20	62.2
		4 数と式 ②(高等学校)	40	44.6
	図形	2 図形	20	29.0
	数量関係	3 数量関係	20	30.5
英語	理解	聞く 1~4 リスニング	20	62.7
		読む 8~10 リーディング	40	40.4
	言語知識	5 文法・語法の知識・理解	20	56.0
	表現	6・7 英語表現の基礎力	20	43.2

### 3 教科別分析

平成18年度(2006)

実施基準日 H18.11.14

学習支援テスト 学習状況分析 国語

平均点(52.3) 標準偏差(17.7)

問題		正答率		領域			
番号	問題項目	正答	配点		小問別	領域別	
問題 1	1	③	1	73.4	60.7	言語事項	
	2	漢字の問題	③	1			78.1
	3		①	1			65.8
	4		②	1			65.9
	5		語句に関する知識問題 (漢字とことわざ)	③			2
	6	③		2			80.8
	7	①		2			61.5
	8	古文 口語訳	②	1			88.6
	9	古文 文法	④	1			57.5
	10	漢文 再読文字	②	2			39.8
	11		④	2			38.0
	12		③	2			70.0
	13	漢文 基本的な助字	③	2			12.5
問題 2	14	文章の構成に関する設問 (接続語の空欄補充や係り受けなどの基本的事項)	④	3	42.0	49.2	現代文 (評論)
	15		②	4	55.9		
	16		①	4	44.3		
	17	書き手の意図や主張に関する設問 (傍線部の説明や、全体の主旨に関する設問)	③	6	73.6		
	18		②	6	44.3		
	19		④	7	32.7		
問題 3	20	小説内の語句や構成に関する問題	③	3	40.9	49.7	現代文 (小説)
	21		①	3	64.0		
	22	場面または心情に関する問題	③	4	78.8		
	23		④	4	60.7		
	24		③	5	28.9		
	25	心情に関する問題・表現の特色の問題	①	5	52.1		
	26		②	6	35.5		
問題 4	27	表現内容の把握 (動作主や話題の展開)	③	3	47.9	52.5	古文
	28		②	3	80.3		
	29	口語訳に関する設問	①	4	47.6		
	30		④	5	32.2		
	31		③	5	62.7		

**【全体】**

正答率にばらつきが出たが、そのことが生徒の得意・不得意な分野をはっきりと示している。国語の基礎力は持っているものの、知識や論理的思考の点ではまだ偏りが見られるので、授業を通じて語彙を増やし、正確に文章を読む習慣を身につけさせる必要がある。

言語事項	<p>言語事項全体の正答率は60%に達しており、基礎的事項の定着に関しては概ね満足できる結果である。</p> <p>課題としては</p> <p>①日常生活で使用頻度の低い語に関する理解が今ひとつであること</p> <p>②古文においては語を識別する問題の正答率が低いこと</p> <p>③漢文の訓読における再読文字の定着の度合いに偏りがあること</p> <p>④漢文の構造に関する理解がまだ深まっていないことがあげられる。</p>
------	---

現代文 (評論)	<p>比較的抽象度の高い論説文であったためか、正答率の低い問題が見られる。特に、日常生活で使用する頻度の低い表現を含む箇所に関する設問の正答率が低くなっている。また、筆者が論理展開において用いている対比の読み取りも十分ではない。なお、問5については、合致するものを選ぶ設問と誤解した生徒が多かったのではないと思われる。</p>
-------------	---

現代文 (小説)	<p>正答率に大きなばらつきが見られ、学習状況の弱点がはっきりとわかる結果となった。心理描写に特徴のある小説であったが、場面の把握や、特定の場面における心情の読み取りはできていると考えられる。一方、小説の表現上の特徴を考えたり、物語全体の流れの中で心情をとらえたりする学習は十分でないことがうかがえる。</p>
-------------	---

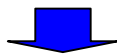
古文	<p>『伊勢物語』からの出題であるが、必ずしも平易な文章ではなく、注をふまえてしっかりと内容を読み取っているかどうかのポイントとなる。特に、動作主の把握や、文法事項も含めた基本的な古語の理解が十分ではない。</p>
----	---

**【正答率が高い問題】**

- 問題5 空欄補充「能ある鷹は( )を隠す」→「爪」(89.6%)
- 問題8 「やうやう」の口語訳(88.6%)
- 問題6 空欄補充「寝( )に水」→「耳」(80.8%)
- 問題28 動作の対象をとらえる(80.3%)
- 問題22 登場人物の心情を前後の描写に即して読み取る(78.8%)

**【正答率が低い問題】**

- 問題13 置き字「於」の用法 (12.5%)
- 問題24 小説の表現効果 (28.9%)
- 問題30 反語表現を含む口語訳 (32.2%)
- 問題19 文章全体の論旨をとらえる (32.7%)
- 問題26 文章全体から登場人物の心情の変化をとらえる(35.5%)

**【今後の対応策】**

平常の授業で、教材に接する際に「なんとなくわかった」で終わらせるのではなく、積極的に語彙を増やし、筋道だてて考えるという、国語本来の目標を生徒に十分理解をさせておく必要がある。また、単元ごとに「生徒が身につける力」を明確化し、生徒自身が学習到達度を意識できるようにすることも効果がある。

平成18年度(2006)

実施基準日 H18.11.14

学習支援テスト 学習状況分析 数学

平均点(42.3) 標準偏差(26.4)

問題		正答率		領域				
番号	問題項目	正答	配点		小問別	領域別		
問題1	アイウエオカキクケ	正負の数の四則演算	① 0	4	65.0	数と式 (中学校)		
	エオカキクケ	分数の加法・減法	① ③	4	68.0			
	オカキクケ	多項式の計算	① ② ③	4	35.6			
	ケ	平方根を含む式の計算	② ③ ⑤	4	71.8			
	コサシス	連立方程式	③ ② ①	4	71.2			
	問題2	アイウエオカキクケ	平面図形の面積	⑤ ②	4		18.9	図形 (中学校)
		エオカキクケ	立体の体積	④ ③ ②	4		34.3	
		オカキクケ	円周角・中心角	① ③ 0	4		30.5	
		ケ	三平方の定理	⑤	4		54.3	
コサシ		相似な図形	① ⑤ ④	4	7.8			
問題3		アイウエオカキクケ	一次関数のグラフ	② ⑥	4	36.5	数量関係 (中学校)	
		ウ	放物線のグラフ	②	4	56.0		
		エオカキクケ	放物線の値域	0 ⑧	4	7.7		
		カキクケ	確率	③ ⑧	4	34.2		
	ケ	関数と図形の融合問題	① ②	4	18.4			
	問題4	アイウエオカキクケ	整式の減法	⑤ ④	4	73.0		数と式 (高等学校)
エオカキクケ		単項式の乗法	① ⑥ ① 0	4	42.7			
カキクケ		式の展開①	⑨ ⑥	4	72.0			
ケ		式の展開②	② ②	4	35.1			
コサシス		因数分解	② ③	4	59.8			
問題5		アイウエオカキクケ	式の値・分母の有理化	① ④	4	27.6	数と式 (高等学校)	
		ウエ	2次方程式①	⑤ ③	4	53.3		
		オカ	2次方程式②	③ ⑦	4	34.9		
		キク	一次不等式	— ⑧	4	28.9		
	ケ	2次方程式の利用(文章題)	⑧	4	20.2			

**【全体】**

今回の出題内容は、高校数学において土台となる、重要な計算、公式・性質等である。しかしながら、正答率から判断すると、十分定着しているとは言えない。まだ、基本的な力が不足していると思われる。基本的な公式や性質等を覚えて、活用できるようにしていきたい。

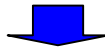
数 と 式	<p>&lt;中学校内容&gt;</p> <p>(1)は、整数の四則計算。(2)・(3)は、分数の計算。(4)は、無理数の計算。(5)は、連立2元1次方程式。どれも、基本的な計算であるが、正答率は高くない。特に、(3)については、正答率が低い。</p> <p>(4)・(5)については、正答率が70%を超えているが、ほぼ全員ができてほしい問題である。</p> <p>(1)～(3)については、基本的な整数、分数の計算である。これらの計算は、(4)・(5)も含めて、あらゆる場面で必要となるものであるため、確実に身に付けてほしい。</p>
	<p>&lt;高等学校内容&gt;</p> <p>問題4(1)は、整式の加減の計算。(2)は、単項式の乗法の計算で、指数法則を活用する。(3)・(4)は、多項式の展開の計算。(5)は、たすき掛けを用いての因数分解の計算。(1)及び(3)は、高い正答率となっている。</p> <p>(1)～(5)は、すべて基本的な計算であり、あらゆる場面で必要となるものであるため、公式も含めて確実に身に付けてほしい。</p> <p>問題5(1)は、無理数の計算。(2)・(3)は、2次方程式の計算であるが、正答率は高くない。解の公式も含めてきちんと身に付けてほしい。(4)は、1次不等式の計算であるが、正答率が低い。等式と不等式の性質の違いが理解できていないのではないか。(5)は、2方程式の文章題である。まず、問いかけ文を図や式で表現しておくことが必要となる。</p>

図 形 ( 中 学 校 )	<p>(1)は、三角形の面積の問題。(2)は、公式を用いて角錐の体積を求める問題。(3)は、円周角と中心角の関係を用いて解く問題。(4)は、三平方の定理を用いて解く問題。(5)は、三角形における相似の性質を利用する問題。</p> <p>このうち、(2)～(4)は、基本的な定理、公式、性質なので、確実に覚えて、活用できるようにしておきたい。</p>
---------------------------------	--

数 量 関 係 ( 中 学 校 )	<p>(1)、(2)及び(3)は、関数の基本的な性質を利用して解く問題であるが、正答率は高くない。特に、(3)の変域の問題では、グラフを利用して解くように、心掛けたい。</p> <p>(4)は、出題頻度の高い確率の問題であるが、正答率は低い。樹形図や図など利用して、きちんと数え上げることができるようにしていくことが大切である。</p> <p>(5)は、関数と図形の融合問題で、出題頻度が高いので、十分に復習させておきたい。</p>
---	--

<b>【正答率が高い問題】</b>	
○整式の減法	73.0%
○式の展開①	72.0%
○平方根を含む式の計算	71.8%
○連立方程式	71.2%
○分数の加法・減法	68.0%

<b>【正答率が低い問題】</b>	
○放物線の値域	7.7%
○相似な図形	7.8%
○関数と図形の融合問題	18.4%
○平面図形の面積	18.9%
○2次方程式の利用(文章題)	20.2%



**【今後の対応策】**  
 多くの問題に取り組むことも大切であるが、生徒が復習をする際には、間違えた原因を考えていくことを心掛けさせたい。その原因が、公式の暗記のミスなのか。あるいは、計算ミスなのか。計算ミスなら、どうして計算ミスが起こったのかなどを考えていくことが大切である。また、分からないのであれば質問をする習慣を身に付けさせたい。

平成18年度(2006)

実施基準日 H18.11.14

学習支援テスト 学習状況分析 英語

平均点 (48.6) 標準偏差 (18.8)

問題		問題			正答率		領域
番号	問題項目	正答	配点	小問別	領域別		
問題1	1	音素の聞き取り(数字) 時計の時刻	①	1	55.5	62.8	理解 (聞くこと)
	2	音素の聞き取り(否定) ドアの開閉	②	1	51.2		
	3	音素の聞き取り(数字) 電話番号	①	1	97.1		
問題2	4	短文の聞き取り(動作) 女の子の動作	③	1	93.4		
	5	短文の聞き取り(状態) 日本各地の天気	④	2	96.5		
	6	短文の聞き取り(比較表現) 高さの比較	②	2	46.5		
問題3	7	対話・英文の聞き取り(疑問詞) How long~?	④	2	50.3		
	8	対話・英文の聞き取り(慣用表現)	①	2	38.3		
	9	対話・英文の聞き取り(疑問詞) Where~?	①	2	63.1		
問題4	10	英文を聞き取り、要点を押さえる(場所)	③	2	72.4		
	11	対話を聞き、要点を押さえる(理由)	①	2	36.8		
	12	対話を聞き、要点を押さえる(何をしたいか)	③	2	75.0		
問題5	13	文法・語法(代名詞)	④	2	44.3	56.0	言語知識
	14	文法・語法(受動態)	③	2	66.3		
	15	文法・語法(助動詞)	②	2	47.5		
	16	文法・語法(疑問詞) Whose+名詞	③	2	58.5		
	17	文法・語法(最上級)	③	2	63.8		
	18	文法・語法(構文) so~ that A can..	④	2	55.8		
	19	文法・語法(動名詞) 前置詞+~ing	④	2	64.5		
	20	文法・語法(構文) remember~ing	②	2	46.8		
	21	単語(名詞)	②	2	76.8		
	22	単語(副詞)	③	2	36.1		
問題6	23	英語の表現(値段)	③	2	88.5	43.2	表現
	24	英語の表現(慣用表現) How have you been?	②	2	31.1		
	25	英語の表現(日付)	③	2	83.6		
	26	英語の表現(慣用表現) Shall I~?	①	2	70.2		
	27	英語の表現(単語)	③	2	45.0		
問題7	28	語整序(間接疑問文)	③	3	31.2		
	29		①				
	30	語整序(現在分詞の後置修飾)	②	3	9.4		
	31		①				
	32	語整序(SVOO, 疑問詞+to不定詞)	①	4	26.5		
33	④						
問題8	34	単文の内容理解(make+O+動詞の原形)	②	2	57.4	40.5	理解 (読むこと)
	35	単文の内容理解(have a good time)	③	2	72.4		
	36	単文の内容理解(tell+O+(not)to~)	②	2	65.5		
	37	単文の内容理解(May I~?)	③	2	48.3		
	38	単文の内容理解(leave+O+形容詞)	③	2	28.1		
	39	単文の内容理解(help yourself to~)	④	2	27.6		
	40	単文の内容理解(be against / be for)	②	2	48.2		
	41	単文の内容理解(above(=beyond))	③	2	43.5		
	42	単文の内容理解(make+oneself+understood)	④	2	23.2		
	43	単文の内容理解(can't wait to~)	①	2	33.7		
問題9	44	30~50語程度のパラグラフの概要把握	①	3	53.9		
	45	30~50語程度のパラグラフの概要把握	④	3	31.6		
	46	30~50語程度のパラグラフの概要把握	①	3	40.3		
	47	30~50語程度のパラグラフの概要把握	①	3	17.1		
	48	30~50語程度のパラグラフの概要把握	②	3	31.2		
問題10	49	比較的長い文の要点把握	③	2	34.7		
	50		①	3	43.5		

### 【全体】

領域別の結果としては、聞くこと(リスニング)の正答率が高いが、書くことや読むことの正答率が低く、高校入試の結果とほぼ同じ傾向となっている。基本文法や基本構文、英文(今回は100~300語程度)の速読力の定着が不十分である。

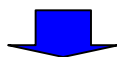
理解 (聞くこと)	<ul style="list-style-type: none"><li>・聞くことにおいては、概ね中学校レベルの力は身につけていると思われる。</li><li>・1,2は基本的な音素の聞き分けの問題であるが、やや苦手なようである。リスニング力をあげるためには、正確に音素を聞き分ける練習も必要だろう。</li><li>・11については、対話を聞いて質問に答える問題であるが、単語の聞き取りはできているものの、全体の内容を聞き取れていないようである。まとまりのある英文や対話の聞き取り練習を多くする必要があると考えられる。</li></ul> <p>◎概ね良好。より一層正確性を高め、様々な英文に慣れさせたい。</p>
言語知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・今回の出題範囲が中学校の内容だったため、全体として正答率はまずまずの高さとなった。</li><li>・正答率から言えば、代名詞に関する問題(13)、助動詞に関する問題(15)、動名詞と不定詞(20)、副詞(22)の定着が不十分であるようだ。高校1年生の内容を含め、再度言語知識について総復習して定着を図りたい。</li></ul> <p>◎基本的事項は概ね身に付いている。中学校の内容を中心とした総復習が不可欠。</p>
表現	<ul style="list-style-type: none"><li>・24,27は会話でよく使われる表現であるので、定着させたい。</li><li>・28~33の並べ替え問題については、非常に正答率が低い。基本的な語順(今回は間接疑問文や分詞の後置修飾)を確実に定着させたい。</li><li>・中学校での英語学習の問題点として、書くことが不十分であることが指摘されている。基本的な英文が定着するまで、繰り返し練習させたい。</li></ul> <p>◎表現力の基礎が不十分。語順を中心に、スペリング、基本的な構文など、確実に身につけさせたい。</p>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・読解については、領域別の正答率が一番低い結果となった。</li><li>・問題8は、単文の内容理解を問う問題であるが、中学で既習の内容(34~37)の正答率はよかったが、高校で習う内容(38~43)の正答率が低かった。</li><li>・ある程度まとまった英文を数多く読ませ、英文の構成や、つなぎ言葉(47)などに慣れる必要があると思われる。また、パラグラフリーディングや速読のためのスキミングやスキニング等(49,50)も練習させたい。</li></ul> <p>◎ある程度まとまった量の英文を、たくさん読ませる機会を設けたい。</p>

### 【正答率が高い問題】

- 音素の聞き取り(数字) 97.1%
- 短文の聞き取り(動作) 93.4%
- 短文の聞き取り(状態) 96.5%
- 英語の表現(値段) 88.5%
- 英語の表現(日付) 83.6%

### 【正答率が低い問題】

- 語順(並べ替え) 9.4%
- 単文の内容理解 26.5%
- 単文の内容理解 23.2%
- 30~50語程度の 27.6%
- パラグラフの概要把握 17.1%



### 【今後の対応策】

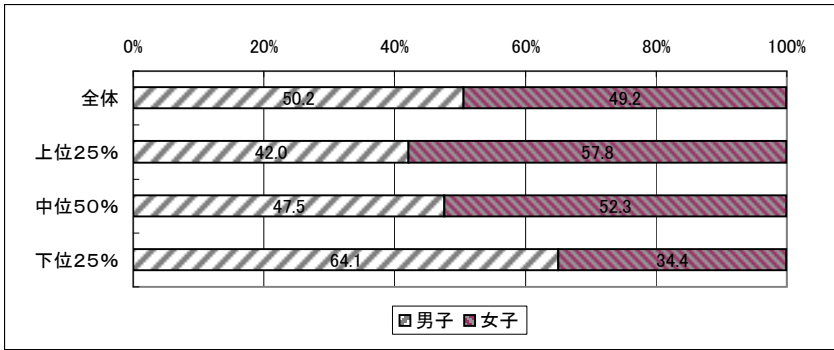
英語Iの授業や家庭学習を通じ、4領域の力がバランスよく身につくように、各高校の実態に応じた指導法やテストの研究が必要と思われる。教科書だけにとらわれることなく、英字新聞、インターネットの活用やスピーチ、ディベートなど生徒の様々な活動を取り入れることも1つの方法と考えられる。



#### 4 学習状況アンケートの結果

##### (1) 男女別

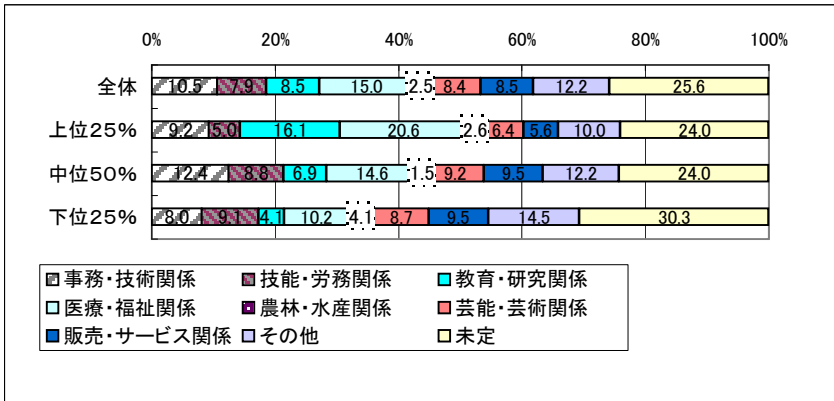
1 あなたは、いずれに該当しますか。



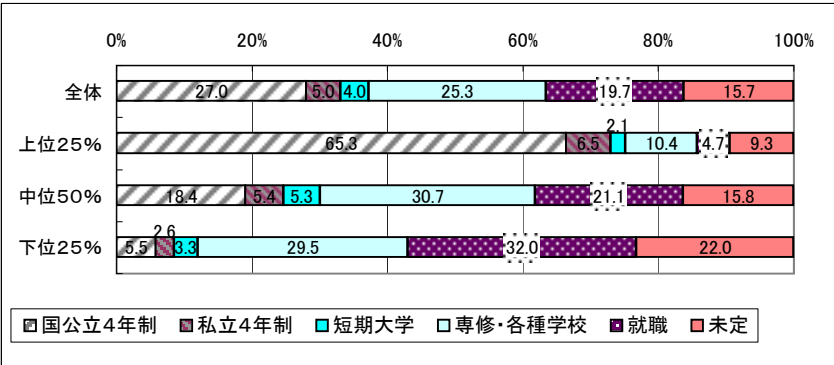
下位層で男子生徒の割合が大きく増加する。

##### (2) 進路希望

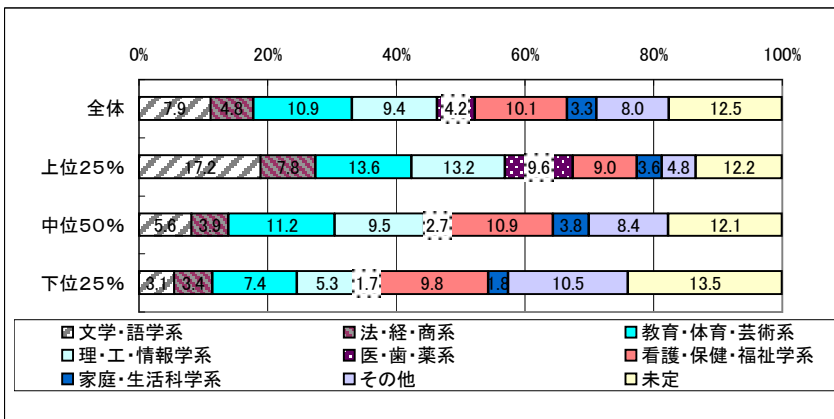
2 あなたは将来どのような職業にもっとも就きたいと思っていますか。



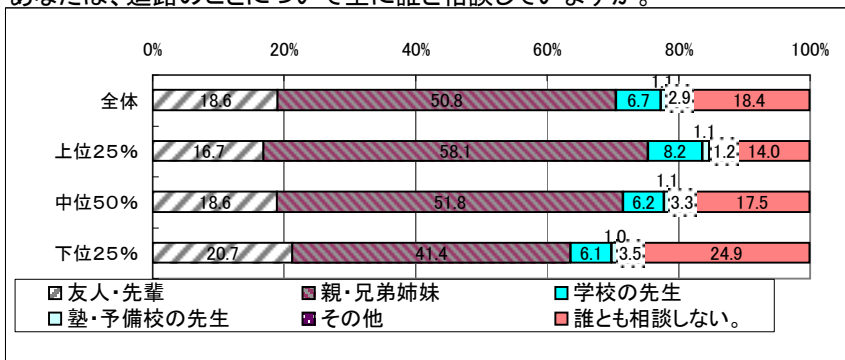
3 あなたが、現在希望している高等学校卒業後の進路はどれですか。



4 (進学希望者)どの分野をもっとも学びたいと考えていますか。



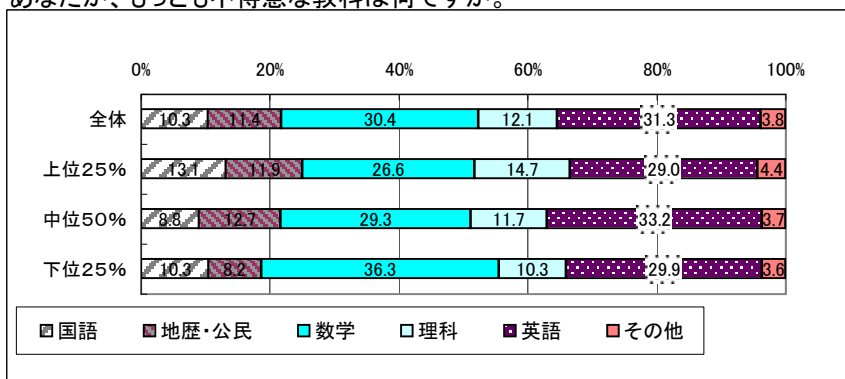
5 あなたは、進路のことについて主に誰と相談していますか。



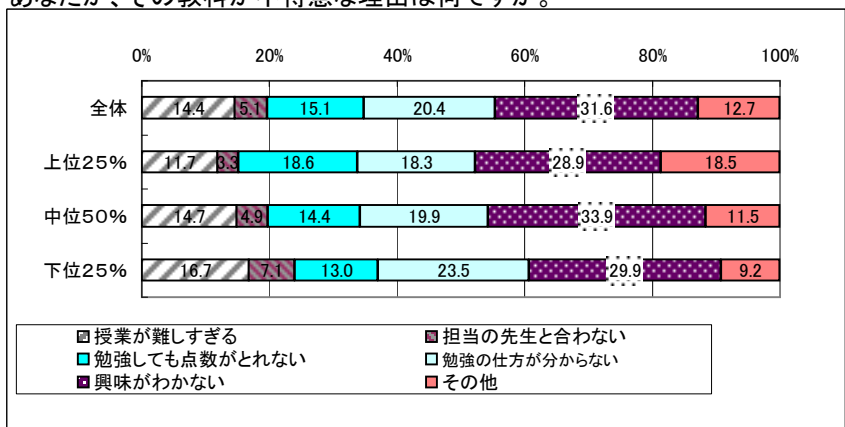
- 下位層では将来の進路が未定の割合が高い。
- 上位層で圧倒的に4年生国公立大学希望者が多い。
- 進路についての相談は親・兄弟姉妹とする割合が高い。

(3) 学習・授業

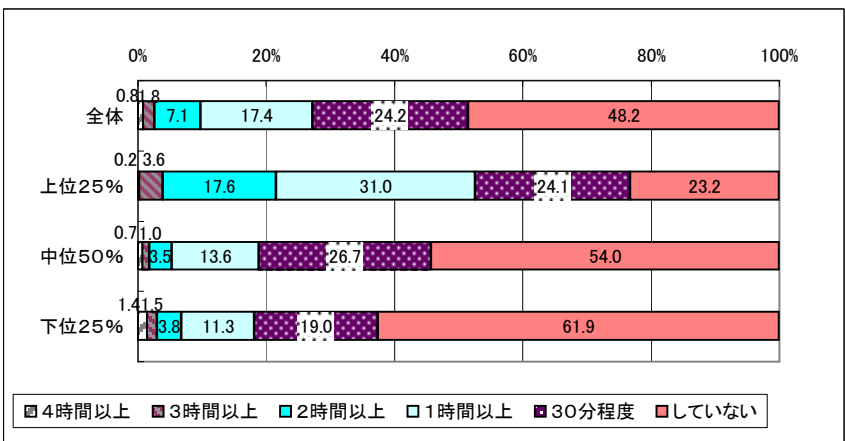
6 あなたが、もっとも不得意な教科は何ですか。



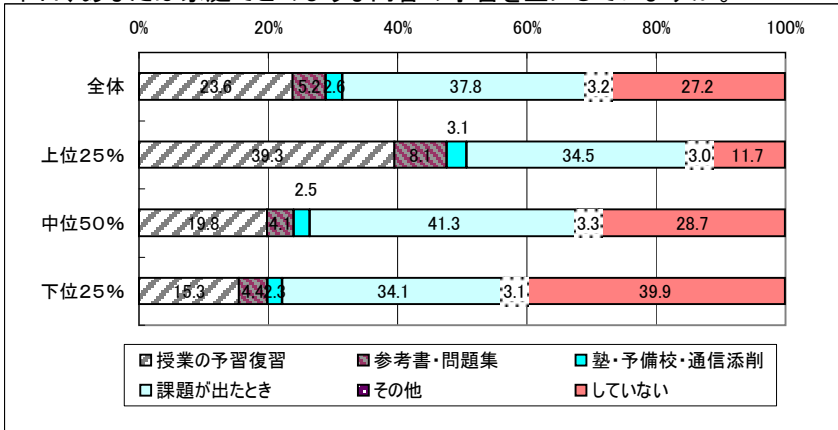
7 あなたが、その教科が不得意な理由は何ですか。



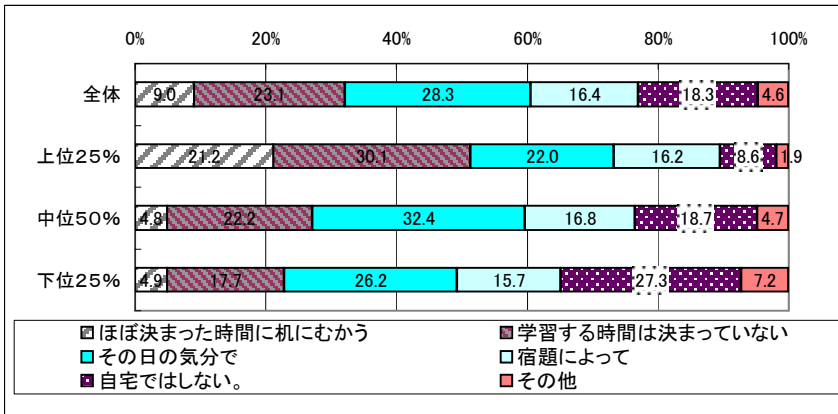
8 平日、あなたが授業以外の平均学習時間はどのくらいですか。



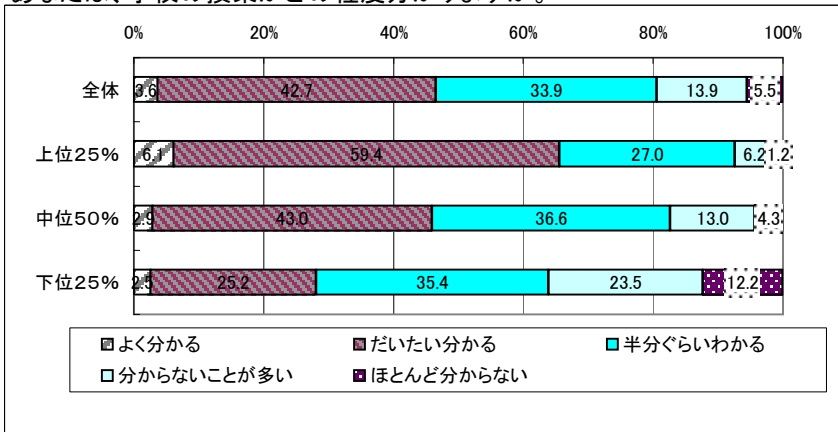
9 平日、あなたは家庭でどのような内容の学習を主にしていますか。



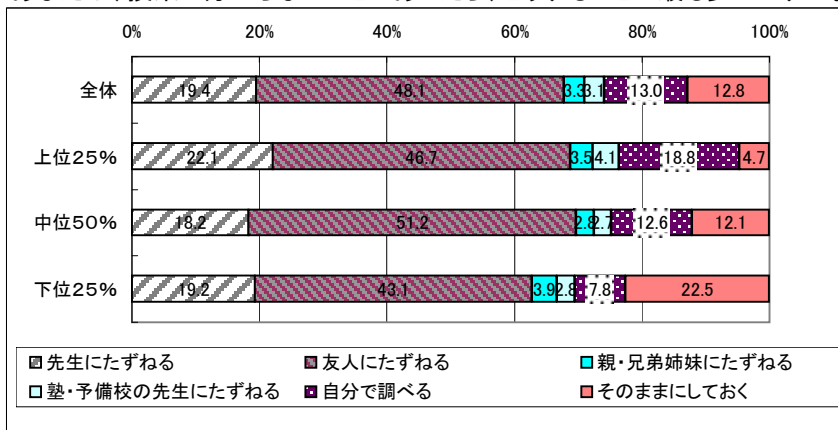
10 平日、あなたは家庭でどのような仕方で学習を主にしていますか。



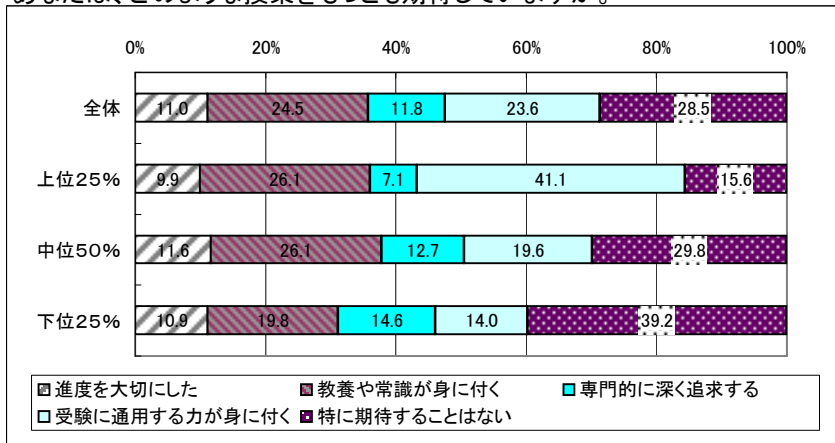
11 あなたは、学校の授業がどの程度分かりますか。



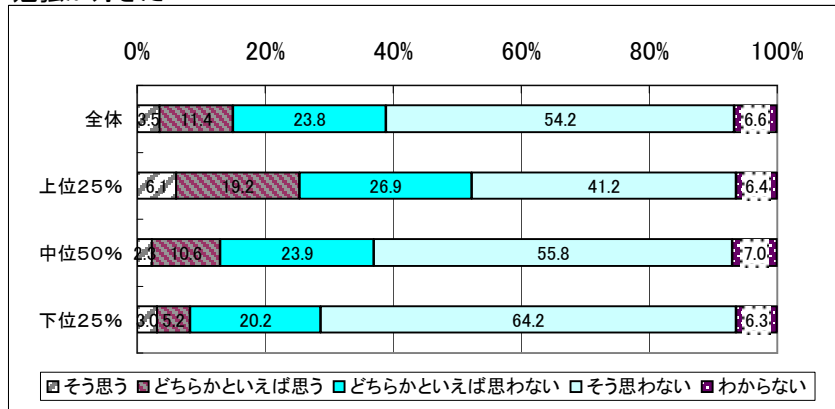
12 あなたは、授業で分からないことがあったら、どうすることが最も多いですか。



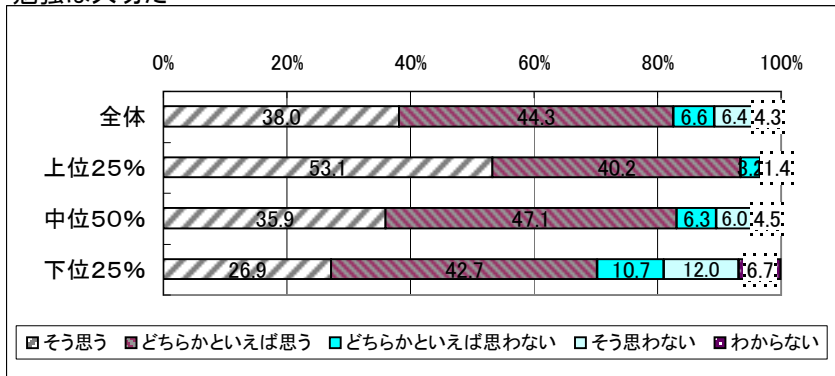
13 あなたは、どのような授業をもっとも期待していますか。



14 勉強が好きだ



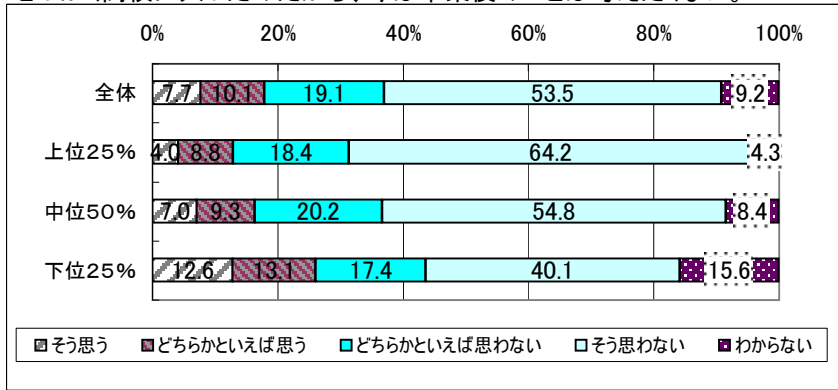
15 勉強は大切だ



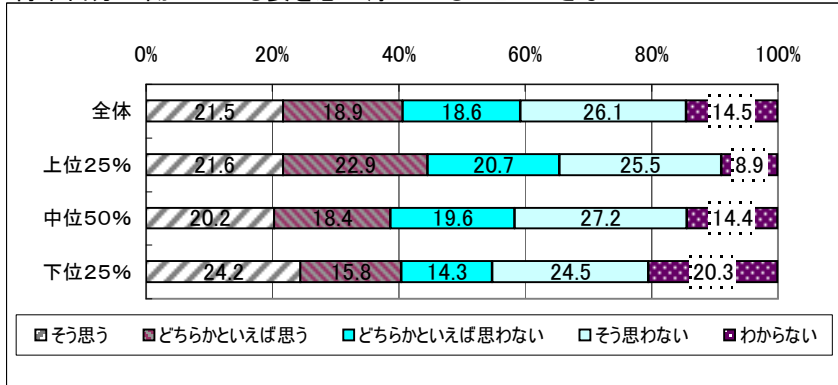
- 苦手教科は数学、英語の順が多い。
- 苦手な理由は、「興味がわからない」「勉強の仕方が分からない」が多く、上・中位層では「興味」、下位層では「勉強の仕方」が高い傾向がある。
- 高校1年生の半数がまったく勉強をしていない。上位層でも1時間以上が最多。ただし、中位、下位層では学習時間に差がない。
- 上位層は授業中心の学習を、毎日決まった時間にやっている可能性が高い。
- 平均すると80%程度は授業が半分以上理解できていると思っている。しかし、各層間の差は大きい。
- 下位層は授業が分からない場合も放置する傾向があり、授業への期待も低い。
- 勉強が好きと考える層は少ないが、すべての層で勉強は大切であると思っている。

(5) 職業観、将来像

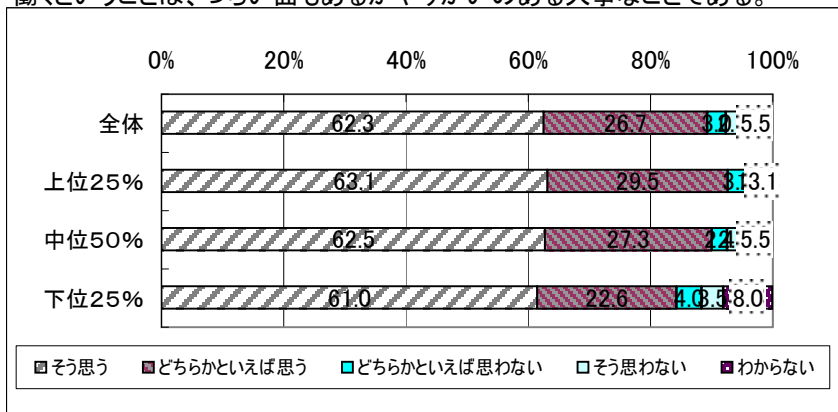
16 せっかく高校に入ったのだから、今は卒業後のことは考えたくない。



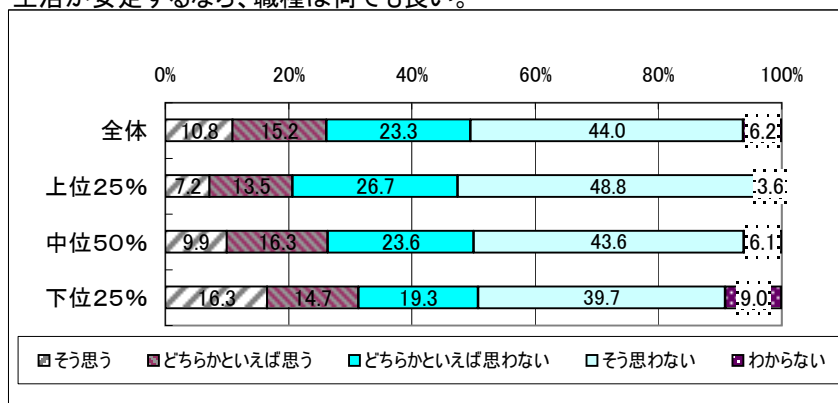
17 将来自分が働いている姿を思い浮かべることができない



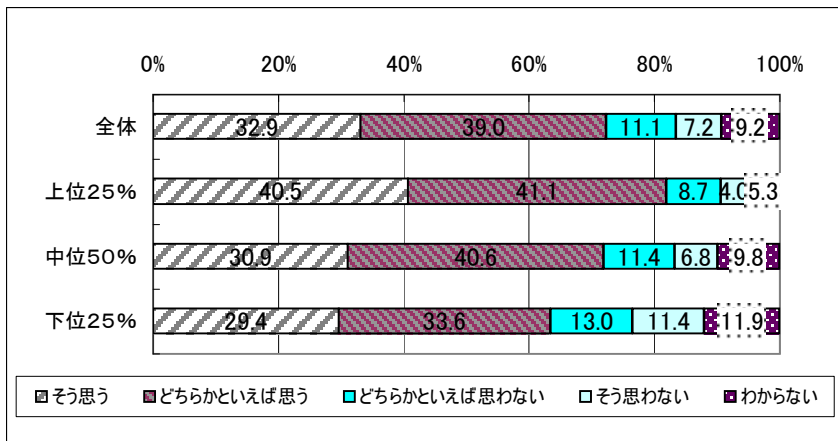
18 働くということは、つらい面もあるがやりがいのある大事なことである。



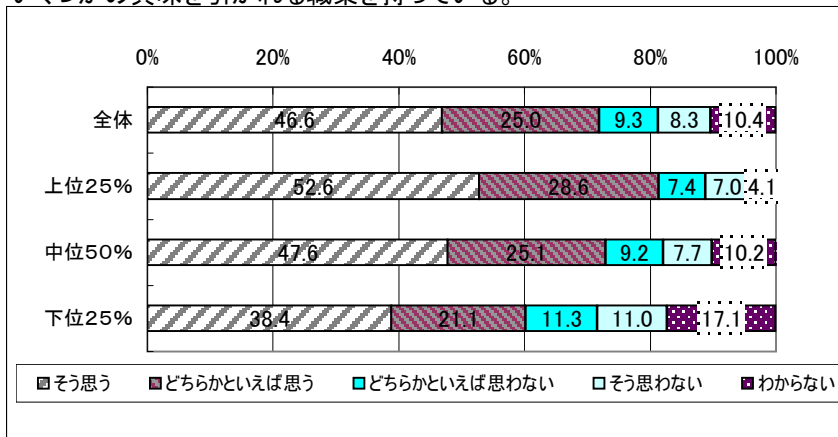
19 生活が安定するのなら、職種は何でも良い。



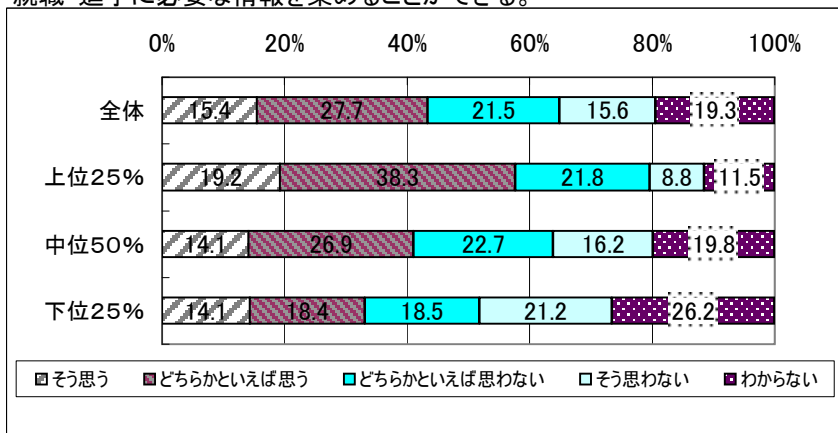
20 将来の職業のために、学校の勉強は意味あるものである。



21 いくつかの興味を引かれる職業を持っている。



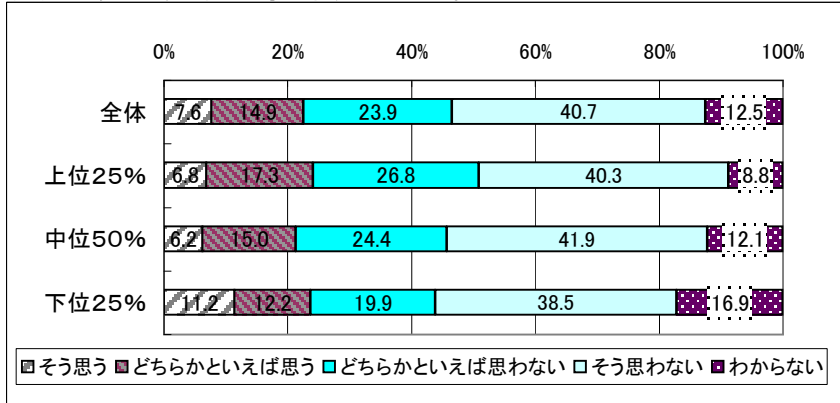
22 就職・進学に必要な情報を集めることができる。



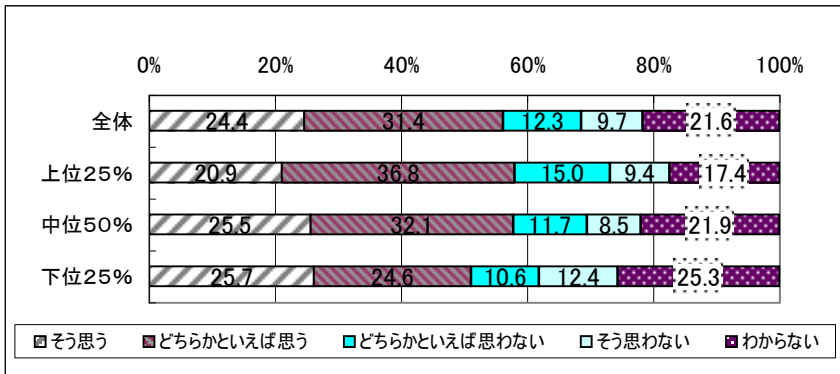
○各層とも、学習の大切さ、働くことの大切さを認識している。  
 ○上位層で、将来の進路に必要な情報を自ら集めることができるという割合が高い。

(6) 目的意識・自己肯定観

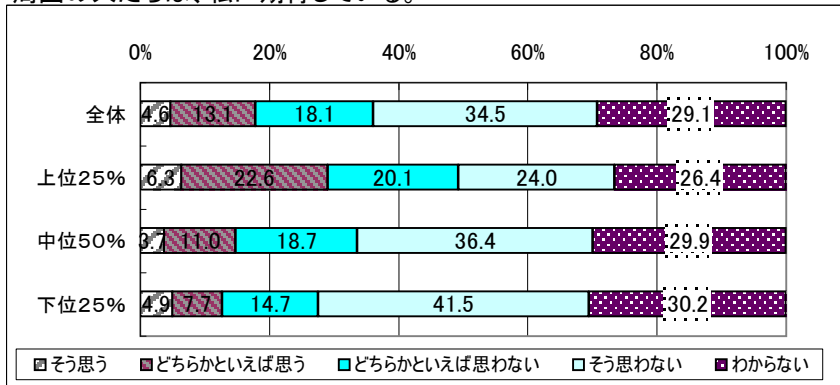
23 欠点もあるが、自分自身に満足している。



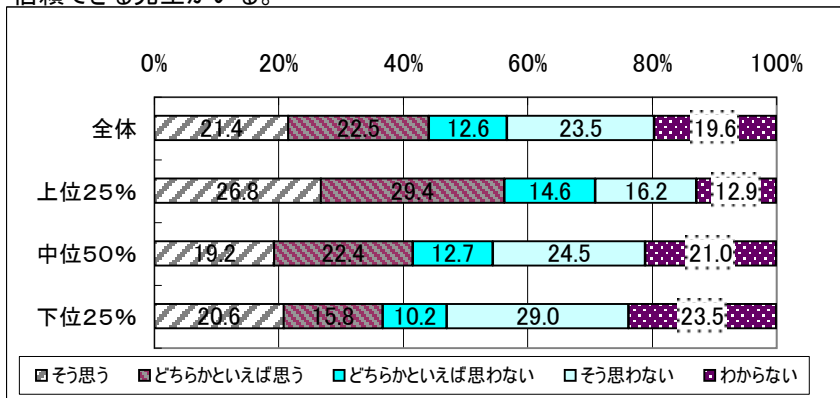
24 就職・進学に一度失敗しても、再度挑戦することができる。



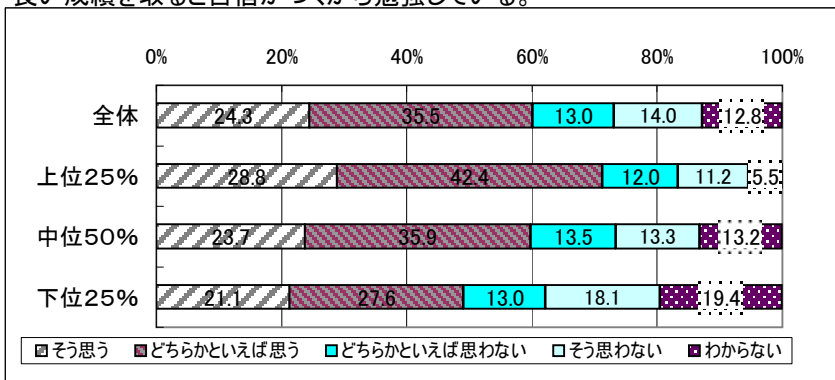
25 周囲の人たちは、私に期待している。



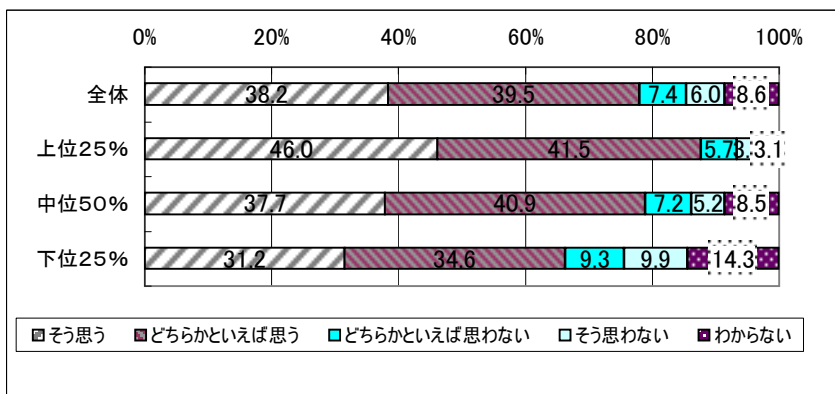
26 信頼できる先生がいる。



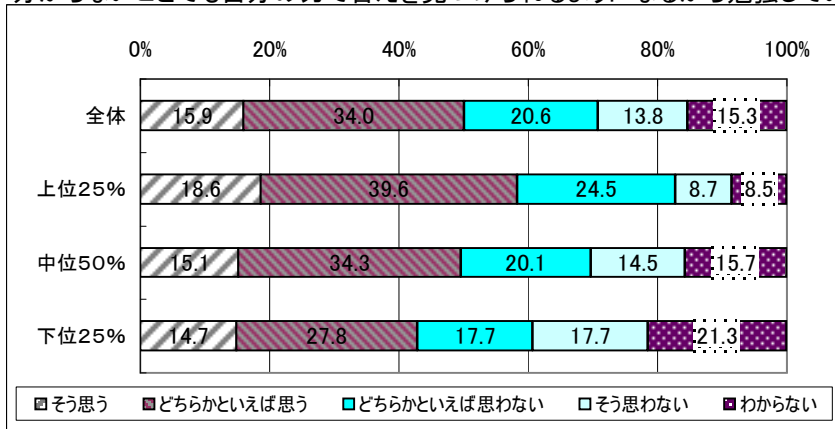
27 良い成績を取ると自信がつくから勉強している。



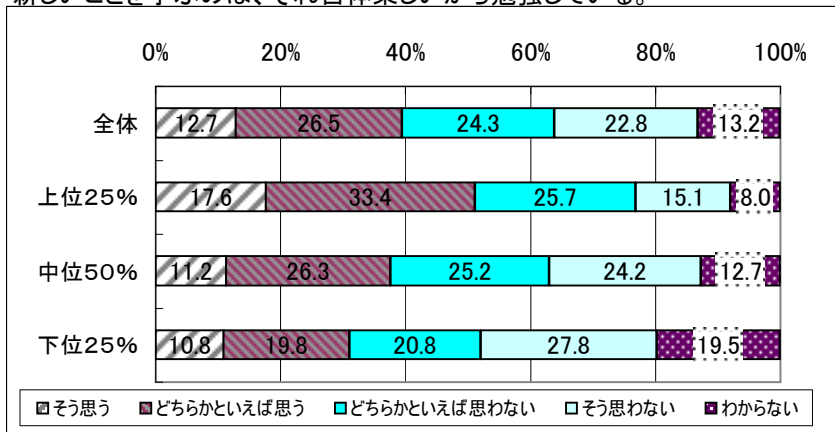
28 入学試験や就職試験に役立つから勉強している。



29 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになるから勉強している。

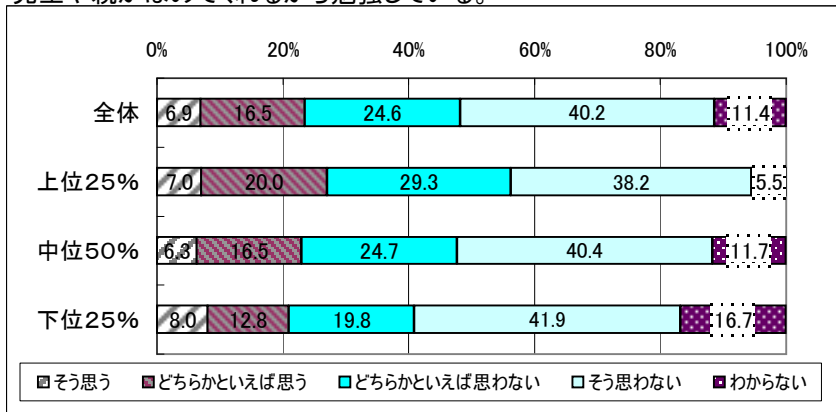


30 新しいことを学ぶのは、それ自体楽しいから勉強している。

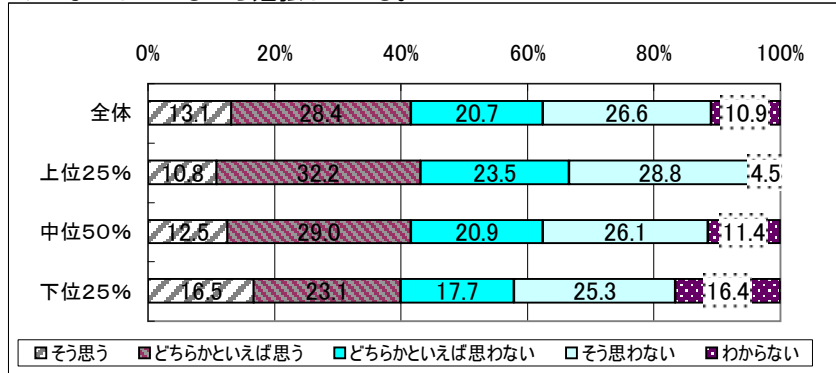




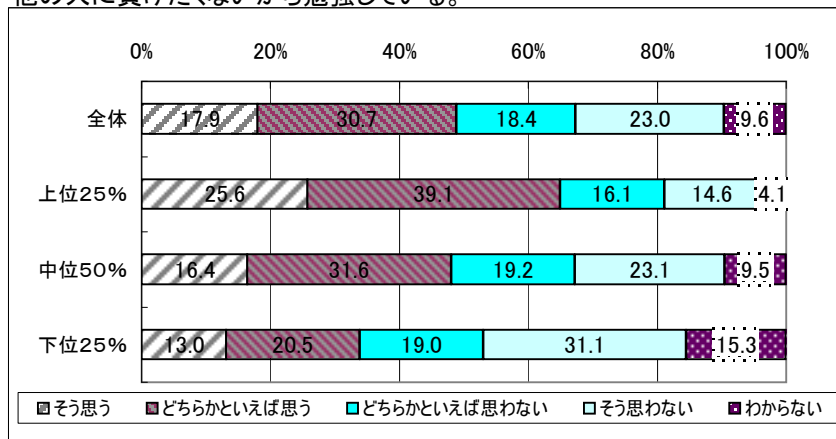
31 先生や親がほめてくれるから勉強している。



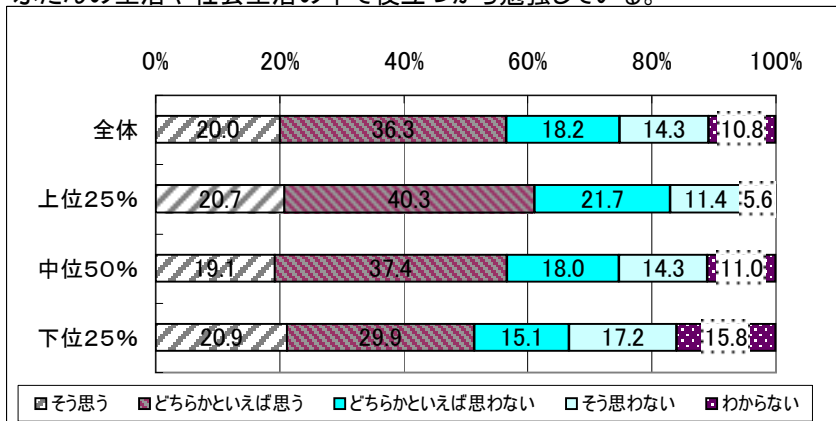
32 みんながしているから勉強している。



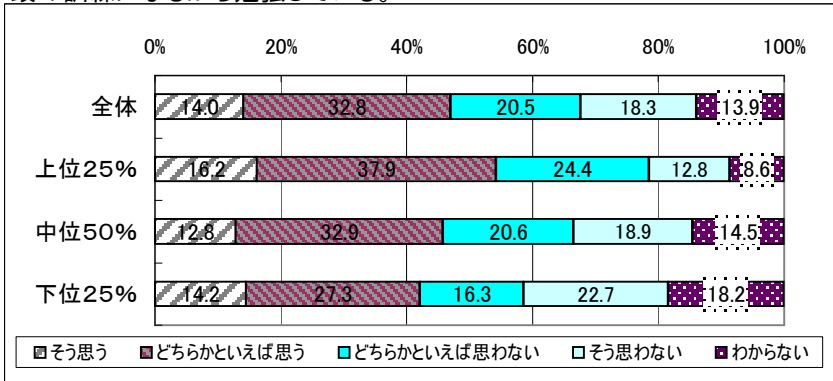
33 他の人に負けたくないから勉強している。



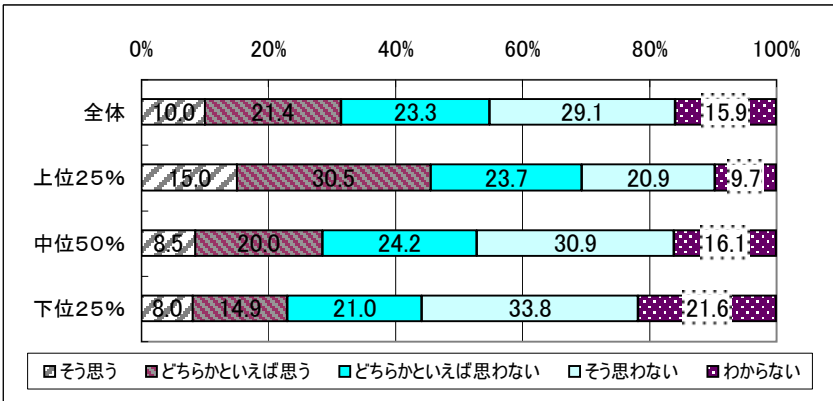
34 ふだんの生活や社会生活の中で役立つから勉強している。



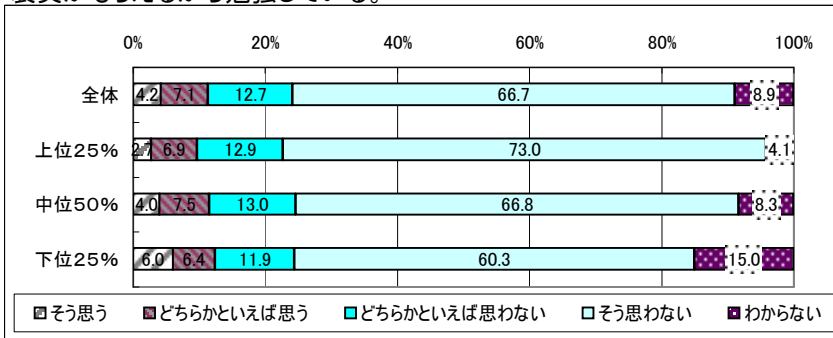
35 頭の訓練になるから勉強している。



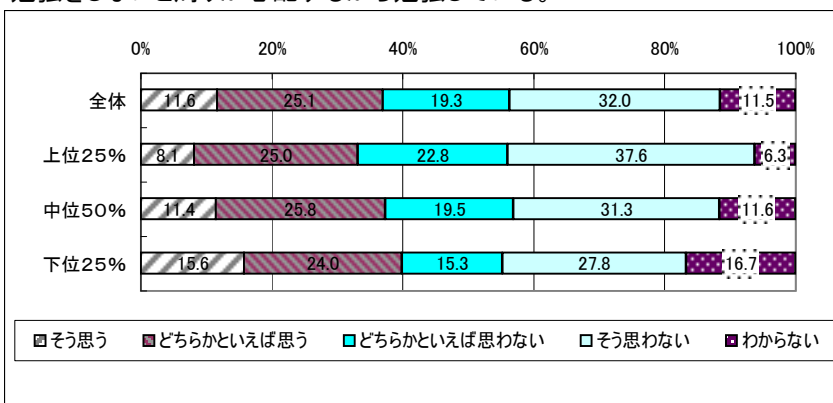
36 勉強によってもたらされる充実感があるから勉強している。



37 褒美がもらえるから勉強している。



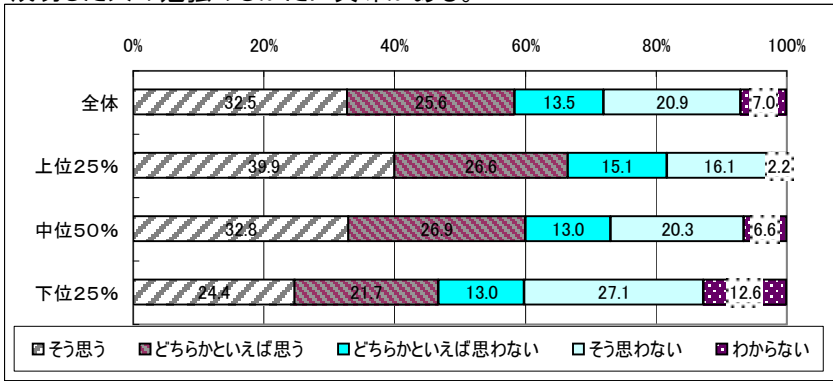
38 勉強をしないと周りが心配するから勉強している。



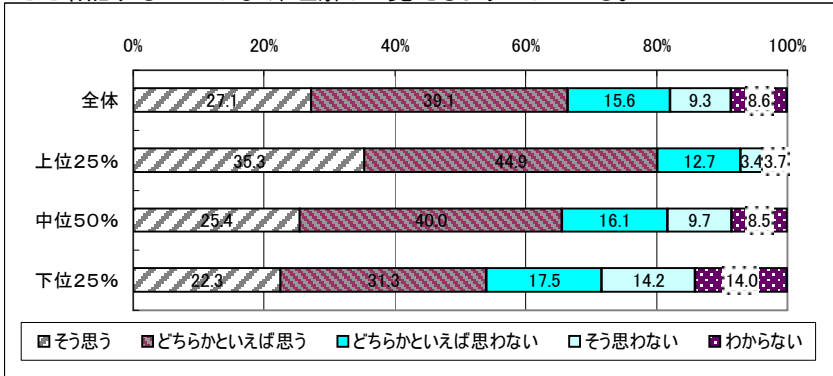
- 「周囲の期待」「先生との信頼関係」「学びの醍醐味」「他者との競争意識」、「達成感」などが、学力と相関があるようである。
- 先生を信頼しているかどうかは、各層間で開きが大きい。
- 周囲に期待されていると思わない割合が中下位層でかなり高い。

(7) 学習方法、意識

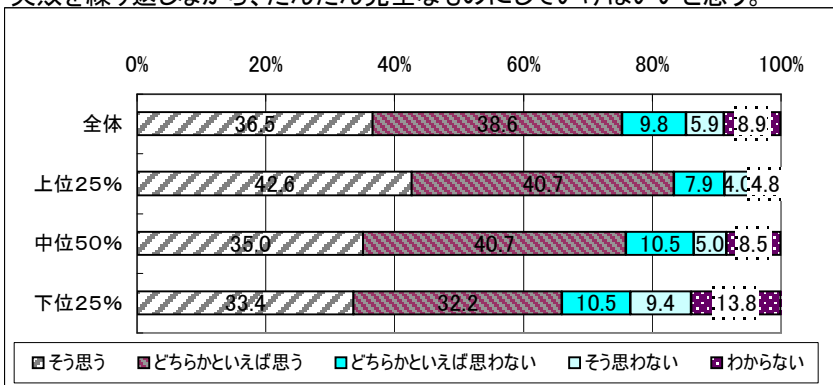
39 成功した人の勉強のしかたに興味がある。



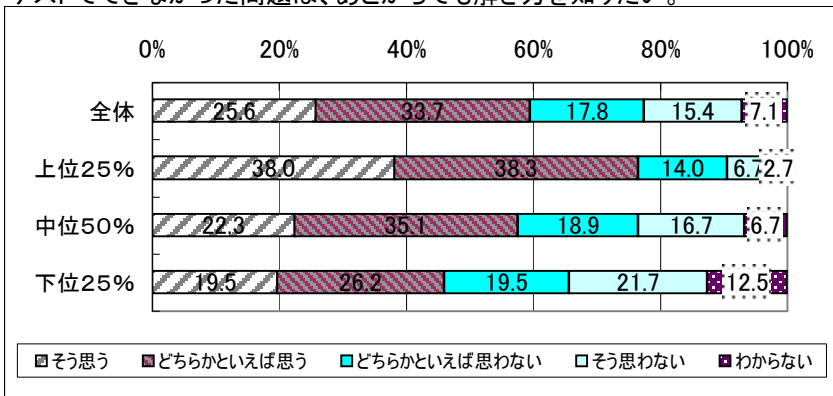
40 ただ暗記するのではなく、理解して覚えるようにしている。



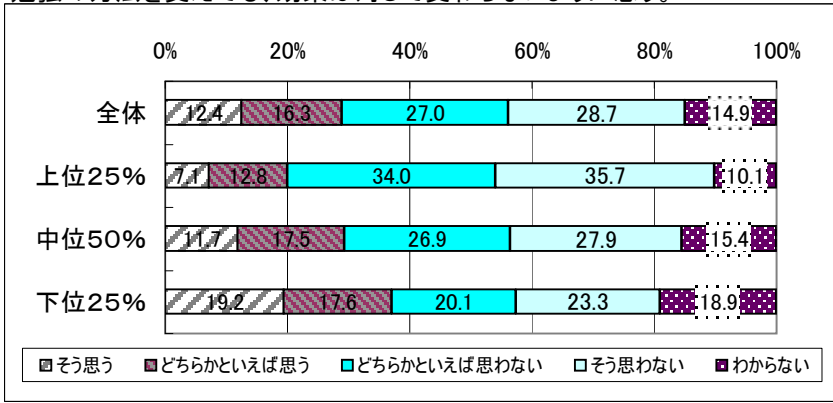
41 失敗を繰り返しながら、だんだん完全なものにしていけばいいと思う。



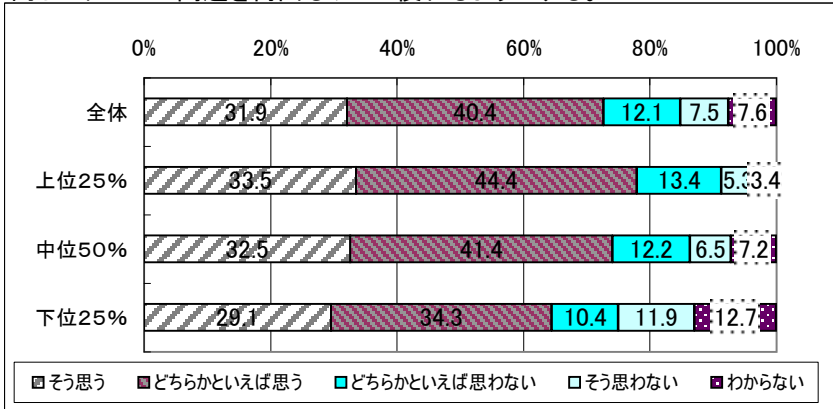
42 テストでできなかった問題は、あとからでも解き方を知りたい。



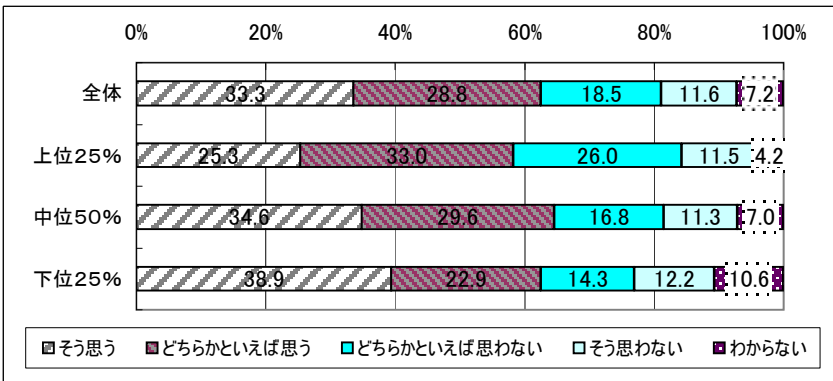
43 勉強の方法を変えても、効果は対して変わらないと思う。



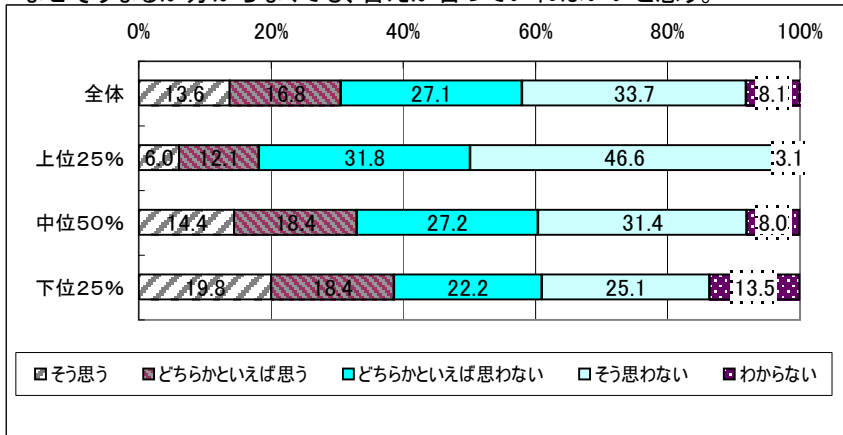
44 同じパターンの問題を何回もやって慣れるようにする。



45 うまくいきそうもないと感じると、すぐにやる気がなくなってしまう。



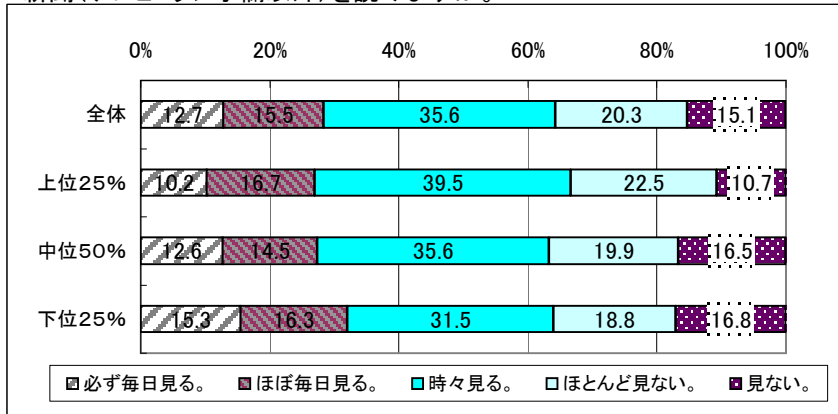
46 なぜそうなるか分からなくても、答えが合っていればいいと思う。



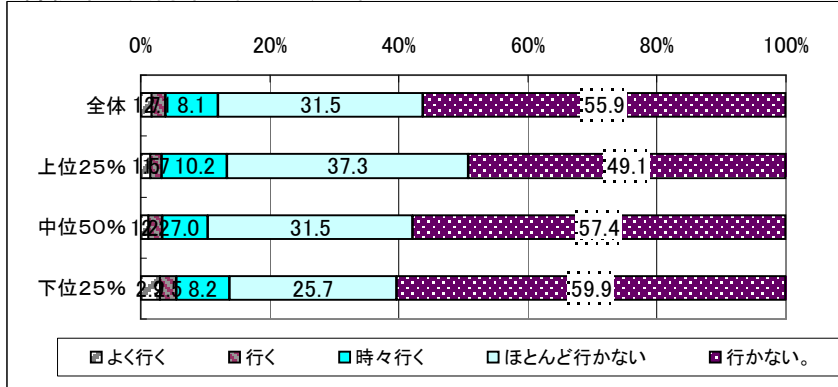
○確実に理解してから覚えるなど、上位層が学習に対して前向きな姿勢をもっている。  
 ○各層を問わず、困難に直面した場合、意欲を失ってしまう傾向が強い。

(7) 生活環境

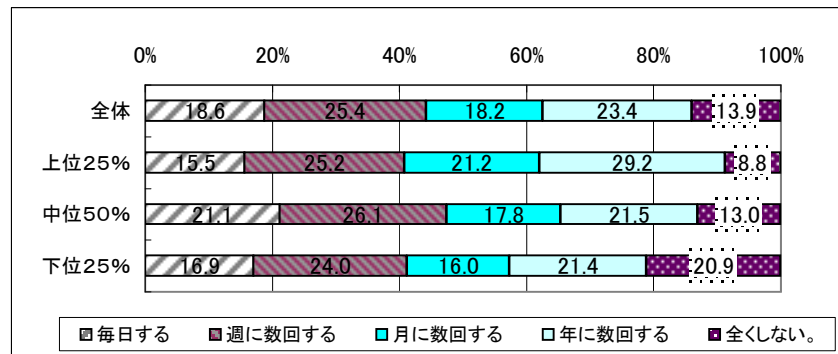
47 新聞(テレビ・ラジオ欄以外)を読みますか。



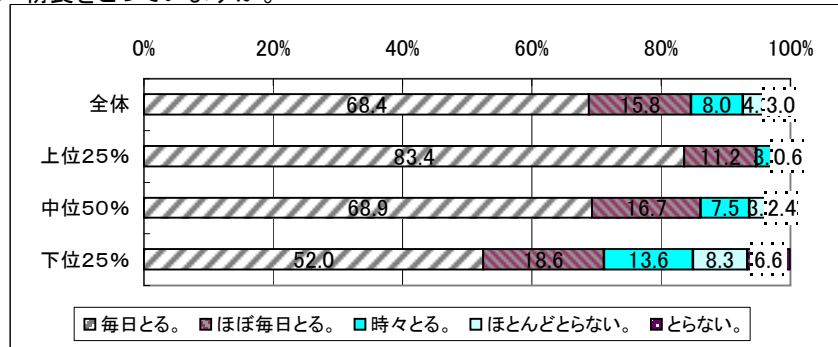
48 博物館や美術館に行きますか。



49 読書(マンガ以外)をどのくらいしますか。



50 朝食をとっていますか。



○朝食の摂取率と学力には相関が見られる。下位層では30%もの生徒が満足に朝食をとっていない。  
 ○新聞や本を読むことに大きな差は見られないが、新聞で下位層、読書で中位層の割合がもっとも高い。  
 ○博物館などの施設にはほとんど行かない。

## (8) 学習状況アンケートのまとめ

### 【全体の傾向】

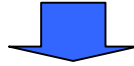
- **自主学习・家庭学習時間**
  - ・約半数が授業以外で学習をしていない。
  - ・この傾向は、中位層、下位層でほとんど差がない。
- **学習が苦手な要因**
  - ・「興味がわからない」「勉強の仕方が分からない」が約半数をしめる。
  - ・下位層ほど、「勉強の仕方がわからない」が増加する傾向がある。
- **授業や学習に対する考え方**
  - ・約80%の生徒が授業の半分程度は分かると考えている。
  - ・学ぶことの大切さは認識している。一方で、勉強が好きであるとする率は低い。
  - ・褒美など外的な動機付けはあまり機能しない。
- **勤労観・職業観**
  - ・働くことの大切さは認識している。
  - ・将来の具体的な目標をもっていることが学習に向かわせる要因になりうる。
- **自己肯定観・意欲**
  - ・「周囲の期待」「先生との信頼関係」「学びの醍醐味」「他者との競争意識」、「達成感」などが、学力と相関があるようである。
  - ・困難なことに対して、すぐに意欲を失う傾向がある。
- **学習環境**
  - ・美術館などの文化的施設の利用は全体に低い。
  - ・朝食をとる率と学力には相関がみられる。

### 【上位層に共通した傾向】

- 授業を大切にしている。
- 進学のための授業を期待する傾向が強い。
- ほぼ決まった時間に机に向かう習慣がある。
- 進路に対する情報を自ら収集することができる。
- 学ぶことのおもしろさや新しいことを学ぶ達成感を重視するなど、学習に対して前向きな姿勢をもっている。
- 分からないことを放置したくない。
- 正答が分かるだけでなく、その理由まで知りたいと考える。

### 【中・下位層に共通した傾向】

- 将来に対する見通しを描けていない。
- 授業に期待していない。
- 授業がわからないとき「そのままにしておく」という率が高い。
- 周囲に期待されていると感じている割合が低い。
- 信頼できる先生がいないと考えている。
- 下位層で新聞を読む、中位層で読書をする率が高い。
- 下位層では50%程度もの生徒が十分に朝食をとっていない。



## 【今後の対応策】

### 1 授業改善を再優先に

授業でいかに生徒をひきつけるかがすべての原点。学習意欲の形成や学び方の習得なども、授業しだいであると言える。「授業第一主義」という意識を再確認し、不断に授業の改善に努めることが必要。

<取組のポイント>

- 授業改善を目指した校内研修（授業公開、授業研究）の充実
- 計画的・組織的な授業評価システムの実施
- 育成型人事評価と連動させた授業改善の推進

### 2 キャリア教育の視点を

将来の人生を見据えた学習が可能になるように、学校教育の様々な場面で、キャリア教育の視点を取り入れる。出口指導（卒業直後の進路のみを問題にする指導）を根本的に見直す。

<取組のポイント>

- 自らの生き方や将来の展望を見つめさせる指導が必要
- 学ぶことの意義やおもしろさを実感させる取組
- 職業や学問分野について、自ら調べるスキルの習得

### 3 学習ガイダンスを充実させ、学習習慣の確立を

自学自習の習慣が身につけていない。小中学段階における家庭学習習慣の形成が必要であるが、高校入学後の取組も重要。学習状況を的確に把握し、学習ガイダンスを充実させる必要がある。

<取組のポイント>

- 入学オリエンテーションや学習ガイダンスの充実
- 学習状況の把握とそれに対する学校としての取組の立案
- 自ら学ぶことの意義を実感させる指導

### 4 確実な「定着」を目指した評価の実施

授業を理解できているとする率は高いが、それが自主的な学習に結びついておらず、学力の確実な定着につながっていない。指導した内容が確実に身につけているかどうかを、常に評価し、手立てを施していく必要がある。

<取組のポイント>

- シラバスの作成とそれに基づいた教科経営
- テストや評価についての正しい理解と方法の改善
- 評価を指導に生かすサイクルの確立

### 5 保護者・家庭の力を借りる

家庭・地域などの生活環境と学力は関連がある。PTAや開かれた学校づくり推進委員会などとの連携した取組が必要。各家庭や地域を学校教育に巻き込み、力を借りるという発想が必要。

<取組のポイント>

- PTA総会の魅力化などにより、保護者の学校参加の促進
- 校内の授業研修への保護者の参加

## 学習支援テスト

### 1 学習支援テストのねらい

学習の到達度及び学習状況を把握し、生徒一人一人の学習上の課題を明らかにすることにより、学習意欲の向上を図るとともに、確かな学力の定着に役立てる。

### 2 学習支援テストの特色

#### (1) 明確なテストデザイン

- ① 基礎的・基本的事項を網羅できるような問題項目のサンプリング
- ② 観点を明確にした問題構成
- ③ 問題レベルの標準化

#### (2) マークシート方式の採用

- ① 各校の採点業務の負担をゼロにすることにより、事後指導の充実を図る。
- ② 詳細かつ大規模な学力分析を可能にする。
- ③ 迅速な（実施後一ヶ月以内）データ返却が可能になる。

#### (3) 自己評価の機会を与えることによる自律した学習者の育成

- ① テストを受験した直後の自己採点の実施
- ② 生徒一人一人の学力と学習の状況を把握させ、自らの課題を明らかにさせる。
- ③ 明らかになった課題をもとに、今後の学習計画を立てさせる。

#### (4) 学習状況調査とのリンク

- ① 学習支援調査（学習状況アンケート）との同時実施
- ② 学力と学習状況をクロスさせた分析が可能

#### (5) 生徒の学習支援のためのデータ返却

- ① 生徒一人一人の学習を支援できるデータを学校に返却する。
- ② 学校が教科指導、進路指導の改善に役立てることのできるデータを返却する。

### 3 実施後の期待される取組

- (1) 生徒 実施直後の自己採点を通じた課題把握
- (2) 教員、ホーム主任 返却データ（個人別「学習状況カルテ」）にもとづいた個人面談の実施
- (3) 学校 返却データにもとづいた学校での指導改善（教科指導、進路指導など）
- (4) 進学協、高等学校課 経年データ分析による学力の把握と学力向上対策、進学対策の企画・立案



平成18年度(2006) 学習支援テスト 学習状況カルテ

実施基準日 H18.11.14

学校名 **〇〇 高等学校**

1 年 5 H

出席番号 50 番 氏名 □□ △△

1 学力の状況  
(1) 得点の状況

Sample

	国語	数学	英語	国数	国英	英数	3教科計
点数	67	68	67	135	134	135	202
県内平均	52.3	42.2	48.6	94.5	100.9	90.8	143.1

(2) 領域別の学習状況

教科	領域	問題番号及び観点	点数		得点率	
			配点	得点	県内	個人
国語	言語事項	1 漢字、文法など	20	15	60.7	75.0
		2 現代文(評論文)	30	20	49.2	66.7
	読解	3 現代文(小説)	30	22	49.7	73.3
		4 古文	20	10	52.5	50.0
数学	数と式	1 数と式 ①(中学校)	20	16	62.2	80.0
		4 数と式 ②(高等学校)	40	32	44.6	80.0
	図形	2 図形	20	8	29.0	40.0
	数量関係	3 数量関係	20	12	30.5	60.0
英語	理解	聞 1~4 リスニング	20	17	62.7	85.0
		読 8~10 リーディング	40	26	40.4	65.0
	言語知識	5 文法・語法の知識・理解	20	16	56.0	80.0
	表現	6・7 英語表現の基礎力	20	8	43.2	40.0

2 学習の状況

設問	回答	設問	回答
将来の職業	農林・水産関係	家庭学習時間	2時間以上
高校卒業後の進路	4年制国公立大学	学習内容	授業の予習・復習中心
(専攻分野)	その他	学習方法	ほぼ決まった時間机にむかう
読書	月に数回する	授業の理解度	半分ぐらい分かる
新聞	ほぼ毎日見る	苦手教科	英語
朝食	毎日とる	苦手教科の理由	興味がわからない

3 学習状況の自己分析

本人記入欄	ホーム主任確認欄
-------	----------

Sample

学校名	〇〇 高等学校
-----	---------

1 学力の状況

(1) 受験者数

	国語	数学	英語	3教科計
学校	263	265	265	263
県内	4839	4840	4839	4817

(2) 得点の状況

	国語	数学	英語	国数	国英	英数	3教科計
学校平均	48.9	30.8	47.0	79.7	95.8	77.7	126.6
県内平均	52.3	42.2	48.6	94.5	100.9	90.8	143.1

(3) 教科別偏差値

	国語	数学	英語	3教科計
偏差値	48.1	45.7	49.1	47.0

(4) 領域別の学習状況

教科	領域	問題番号及び観点	点数		得点率	
			配点	学校得点	県内	学校
国語	言語事項	1 漢字、文法など	20	11.3	60.7	56.7
	読解	2 現代文(評論文)	30	13.6	49.2	45.4
		3 現代文(小説)	30	14.2	49.7	47.5
		4 古文	20	9.7	52.5	48.5
数学	数と式	1 数と式 ①(中学校)	20	11.7	62.2	58.6
		4 数と式 ②(高等学校)	40	10.6	44.6	26.5
	図形	2 図形	20	3.7	29.0	18.7
	数量関係	3 数量関係	20	4.7	30.5	23.6
英語	理解	聞 く 1~4 リスニング	20	12.1	62.7	60.7
		読 む 8~10 リーディング	40	15.0	40.4	37.4
	言語知識	5 文法・語法の知識・理解	20	11.7	56.0	58.3
	表現	6・7 英語表現の基礎力	20	8.2	43.2	40.8